

○具体的な取り組みについて

資料3

分類	具体的な取り組み	委員意見	委員名
地域資産の保存・活用	<ul style="list-style-type: none"> ○地域資産（歴史的建造物や小田原駅など小田原特有の資源）を活用した事業 ○二宮尊徳の教えを活用した事業 ○地域資産の保存と継承 ○郷土学習の推進 	<p>お城の整備・・・優位性のトップはやはりお城である。市民の憩いの場として、観光客が訪れる場として最大の資源である。家族で散歩したり、観光客がゆっくり時間を過ごす施設（例えば本丸を芝生化する・歴史を学ぶ展示物の充実）として重点的に整備する。人が集まることにより旧市街の様々な施設と連携し、町全体の活性化を図る。</p> <p>小田原駅の活用・・・小田原駅は新幹線や箱根への乗り継ぎ客が多く利用しているので、デジタルサイネージや放送等を使い、お城をはじめ市内へ観光客の取り込みを図る。</p> <p>二宮尊徳の見直し・・・トヨタ・ホンダ・ヤマハなど遠州には多くの日本を代表する会社が生まれたが起業者たちに尊徳の精神が大きく影響したと聞く。大量消費型の生活文化は曲がり角に来ており、小田原市としてもう一度尊徳精神を学びなおす運動を起こしたらどうか。</p>	石塚委員長
		<p>地域における多様な産業(生業)の持続可能性を考えた際、地域内の社会関係(絆)のなかでもとりわけ再生を急ぐべきは、産業(生業)と生活とのつながりである。その意味では、職人芸をはじめとする多様な技や芸ARTを人々が日常的に体感できる場を広げることが欠かせない。そのような場を新市民ホールに設けるばかりでなく、「小田原邸園交流館・清閑亭」のようにそれ自体に「なりわい文化」の歴史が刻まれた歴史的建造物を活用する方策が魅力的である。</p> <p>歴史的建造物の活用を考える際、市内に散在する歴史的建造物を相互に連携する「フィールドミュージアム(文化交流館)」と位置づけることが重要である。</p> <p>(例) 国府津地区 長谷川家住宅・神戸屋ふるや住宅(商家) 下府中地区 岩瀬家住宅(農家) 桜井地区 二宮尊徳生家(農家) 旧市街地区 なりわい交流館ほか(商家)・小田原文学館・清閑亭(邸宅) 大窪地区 松永記念館老樗荘・共壽亭(邸宅)・内野家住宅(商家) ほか</p> <p>生活者や事業者の身近にあればミュージアムに対する愛着が深まるだろう。そのような愛着を基盤にし、これらミュージアムの管理・運営を住民や産業団体などに任せるべきである。</p> <p>市内各地の歴史的建造物は地域ごとに表情豊かな「なりわい文化」の象徴である。そうした建物が「なりわい文化」の絆の再生に使われながら一つでも多く残されることで、より多くの地域の産業(生業)の継承や多様な生活(ライフスタイル)ニーズの満足が図られると考える。</p>	平井委員
		<p>当面必要と考えるのは、文化の構成要素等に注意を払いながら、これとの関連において、小田原の歴を再点検・再検証して整理すること。一見、孤立したものや対立的なものを、連動させたり、或いは対比させる、という視点の拡大も、新たな文化創造や、都市としての魅力向上によるその側面からの支援に有効と思われる。先にふれた小田原城と近代の別邸の対比もその一つだが、本来対立的な小田原城跡と石垣山一夜城跡が、今となっては、両者あいまって戦国の動乱の終焉を象徴するモニュメントであったり、貴重な平安仏を有する飯泉観音と宝金剛寺が古代条里制の遺構ともいわれる巡礼街道で結ばれているなど、興味深い素材はまだまだあるように思う。</p>	山口委員
小田原らしさ	<ul style="list-style-type: none"> ○小田原らしさを前面に打ち出した事業 ○小田原への愛着を育める事業 ○小田原の文化、自然、産業、技術が連携した事業 	<p>街全体に回遊性をもたせ、どこでも気楽に散策できるように配慮する。「お堀端通り」「さいかち通り」「かまぼこ通り」「巡礼街道」などの既存の通りを中心に、どの小路にも小田原色豊かな名前をつけて、彫刻などを配置する。</p> <p>(例) ・レモンストリート・オレンジストリート・プラムストリート・さざんか通り・松風通り・恋人通り・アーティスト通り・かもめ通り・えっさほい通りなど。</p>	岩城委員
		<p>市民ホールを、小田原の森の木を出来るだけ使って造る。これによって、演劇、音楽、アート、まちづくりの拠点というだけではなく、小田原の木の文化の発信地にもなる。小田原らしさの創出。林業、森の再生にもつながります。</p>	大森委員
		<p>かつて様々な文人が住んでいた小田原には、アーティストが定住して活動していることを許容する文化がすでにあるのではないかと思います。</p>	鬼木委員
多様な文化とまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な文化事業 ○市民が活躍できる文化事業 ○質の高い文化芸術鑑賞事業 ○伝統文化ワークショップ 	<p>日本の最先端に触れるフォーラム等の開催・・・何事も最先端の状況を知ることには大変重要である。特に若い人たちは人生を生きるうえで大きな糧になる。小田原は半日あれば東京から要人を招くことができる。社会・人文・自然科学、文化、芸能など市民が日本の最先端に触れる定期的な機会を作ってはどうか。</p>	石塚委員長
		<p>ビジョンでは、文化の定義を単なる「芸術鑑賞」に限定しないようにしたいと思います。</p> <p>年に一度のイベントよりは、月に1度の小さな集まりを重視して、ゆっくりでも確実なムーブメントをつくっていくというイメージです。参考例としては、ベネズエラで行われている「エル・システム」という音楽教育のシステムです。ベネズエラでは貧困層に対しても楽器を無償で提供して、オーケストラ活動を行っています。これが地域の犯罪率の低下や社会参画に役だっているという報告があります。</p> <p>自分の日々のちょっとした活動が、まち全体の文化づくりの一翼を担っていると、すべての市民が感じているようなまちなれたら、きっとだれもが住みやすい、住み続けたいと感じるまちになっているに違いありません。このようなムーブメントを象徴するような存在として「現代版まつり」があるとよいのではないかと思います。かつぐ神輿は、できれば新しい価値を象徴するもの。小田原固有のものではなくても、すべての市民が同時に共感できるものでなくても良いと思います。そして、小田原で生まれる新しい何かでありたいと思います。この「現代版まつり」は、1つである必要はありません。多様な価値観を認め、多様なあり方があって良いと思います。季節ごとでも地域ごとでも様々なものがあって良いと思います。ただ、それらが、ゆるやかに繋がって、「現代版まつり」が小田原の様々な個人、団体を、マトリクスのようにつないでいくことが望ましいと思います。</p>	鬼木委員
		<p>文化芸術事業・イベントの把握・網羅・連携（市文連、無尽蔵等と協力）</p>	神馬委員

多様な文化とまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な文化事業 ○市民が活躍できる文化事業 ○質の高い文化芸術鑑賞事業 ○伝統文化ワークショップ 	<p>文化振興の行事の開拓・・・展示会や音楽会などの振興促進を取り組む 文化のあるまちのイメージをつくる(or城下町)</p> <p>①案・・・店にアートを飾る ②案・・・通りが文化になる・・・(例)京都は交差点の名称がランドマーク 通りに通りにかかわる彫刻等の展示配置によりランドマークにする 市民参加によりそのイメージをいただく</p> <p>③ 案・・・伝統文化の日を設ける。城下町＝伝統&革新としてのイベントを開催する きものクラシックコンサート、着物でのおでかけ無料入場や無料乗車 小田原に生きづく手しごと展 伝統文化祭の開催＝個(作家＝社中)としての参加。 「守破離」、「序破急」(風姿花伝)などの文化的継承の言葉などを伝える。</p> <p>④ 案・・・暮らしに一番近いところからの、市民への小さなプレゼンテーションを発信すること ⑤ 案・・・できれば、故人を含めての作家別の資料を造る必要があるのでは。</p>	杉崎委員
文化と観光、生活	<ul style="list-style-type: none"> ○なりわい、生活、観光と文化が融合した事業 ○文化観光を一体的に推進するための人材・組織づくりや市民参加の推進 	<p>観光と連携</p> <p>「なりわい文化」の絆を紡ぐソフトな仕掛け——「文化観光」のプロデュース 産業(生業)と生活とをつなぐ場は施設に限られない。すでに行われている「もあ展」「ARTNOW」のようなイベントや「街かど博物館ツアー」「小田原まちあるき検定」のようなツアーといったソフトな仕掛けも効果的である。その実行を図るうえで重要なのは「文化観光」を恒常的に企画・事業化する一定の専門性と自立性をもった人材・組織の存在である。専門性は「文化観光」についてたえず新たな切り口を開発するために欠かせない。また経済的な裏づけという自立性があるこそ「文化観光」事業も持続可能になる。現在「無尽蔵プロジェクト」で試みられている市民と行政の協働、施設運営との組合せによる財源(経営資源)確保などの成果を踏まえ、それら多様な試みをまずは「文化観光」というコンセプトで総括し目指すべき方向性であることを明確にしたうえで、ソフトな仕掛けを企画・事業化する人材・組織の育成・自立化にむけた複数のプログラムをとりあげるべきである。</p>	神馬委員 平井委員
担い手の育成／伝統文化や技術の継承	<ul style="list-style-type: none"> ○アーティスト、サポーター、コーディネーター、後継者、鑑賞者の育成 ○団体間の交流の推進 ○伝統文化の振興事業 ○次世代へのアプローチ 	<p>多様な文化活動と文化団体や芸術家と市民をつなぎ、連携し、共に育ち元気になる仕組み。</p> <p>文化のプロの企画、運営組織を出来るだけ早く立ち上げる事。文化の5年、10年計画を立てる。ホールオープン時のさまざまなイベント準備。この準備の活動こそが、これからの小田原の文化を支えていく人材づくりの重要な時間だと思います。</p> <p>文化芸術の力が最大限に発揮されるためには、この「現代版まつり」の中核(すなわち神輿)には、優れたアーティストと、優れたコーディネーターが必要でしょう。その神輿をできるだけ魅力的なものにして、そこに多くの人の人生のストーリーが重なっていくことが目標かもしれません。</p> <p>伝統芸能や伝統文化の技術の継承や新たな活用をする基盤の活性化 後継者の育成事業</p>	間瀬副委員長 大森委員 鬼木委員 杉崎委員
推進体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○市民や活動団体を支援する行政組織の確立 ○市民・行政等が一体となって文化施策をチェックする体制の確立 ○小田原の文化を考える市民組織の形成 ○専門家(プロデューサー役)の配置 ○交流を促進するための事業 	<p>市民と行政の協力でビジョンを運用し目標を達成させる仕組み、進行管理と評価する仕組み。 ビジョンは時流により変化し成長する、変化に合わせて対応できる運用方法を検討する。 ビジョンの具現化させる仕組みはPDCサイクルなどで検証することにより、小田原市の地域文化の醸成をはかり、都市アイデンティティ、コミュニティの活性化に資するビジョンとなることを期待する。</p> <p>ビジョンを実現するためには、行政側の職員の役割が非常に重要だと思います。アーティストが文化芸術を作り出すのだとすれば、行政側の職員は、まち全体をコーディネートする役割を担うこととなります。「現代版のまつり」をつなぎ、市全域にわたるネットワークを作り出すためには、行政側職員の役割が大きいです。その点で、行政職員が頻りに交代してしまうのではなく、長期的に地域に関わる体制づくりが必要だと思います。</p> <p>市民事業への支援</p> <p>創造的活動に対しての市の支援 縦割り分野の円滑な流通と積極的な連携を図り革新化していく</p> <p>持続的なプロセスとしてのビジョン ここで「なりわい文化」を目指すべき文化の1つとして提示したように、反論や批判を恐れず具体的な方向性を示すことにより多くの市民のイメージや議論を喚起できると考える。ビジョン自体もそのようにして喚起された議論を積極的に取り込み多様な関係者が関わりつづけることができるように、たえずバージョン・アップする仕組みにすることが重要である。また、それを行政だけに委ねるのではなく、ビジョン策定委員会のような市民と行政と専門家、住民と事業者とが一体となった組織を立ち上げビジョンの進行管理を担うことも提案したい。</p>	間瀬副委員長 鬼木委員 神馬委員 杉崎委員 平井委員

活動拠点の整備	○市民ホールの整備と運用 ○既存公共施設の活用と民間施設との連携	地域文化振興の拠点の整備には、ビジョンを具現化する運営体制や運営方法を検討し、実施内容を検証する仕組み。（新市民会館や生涯学習施設の整備、管理運営計画に反映させ評価する仕組み）	間瀬副委員長
		新しくできるホールが、アーティストが常にいる場所として機能できれば、まちの文化の本当の中心として、輝きを放つことができると思います。	鬼木委員
		活性化の拠点施設と機能の充実	杉崎委員
情報発信	○効果的な情報発信の推進	新市民ホール関連事業の盛り上がりを作るための広報	神馬委員
		価値や魅力の発信を行う。・・・現アートカレンダーの発信を行っているが内容の充実と多様化の対応をHPなどの作成によりより充実させる。	杉崎委員
その他	○市民の文化に対する意識を高める事業 ○教育現場での文化事業	5年後にできる市民ホールは、市民の期待を高めるため、先行してネーミングを決める。（例）「時空ホール」「ホール・序破急」「のんびり小田原評定座」「三の丸ホール」など。現在、無人蔵プロジェクトが行っている「まちなかぶらりミュゼ」や「文化を喰う会」の輪を広げ、地元商店街の店主や市民の美意識を高めていく。	岩城委員
		文化振興予算を知る学習会開催 教育現場の活用	神馬委員